山科川つれづれ散歩　1

スマホカメラで山科川散策
ー瀬戸河原橋付近に残る旧国鉄山科駅の遺構ー

Kenchang



山科川遊歩道は、散歩、ランニング、通学と、老若男女多くの人が行き交い、四季折々に変わる景色が美しい散歩道です。

スマホ片手に日々の散策コース（勧修寺公園から六地蔵）の景色をいくつかご紹介します。

名神高速道路の高架下、瀬戸河原橋付近の河底に、川の中ほどや水辺にレンガ造りの構造物が見えます。一見すると、橋の橋梁か、建物の柱なのか、水鳥が泳ぐ場にはそぐわない。



このレンガ構造物は、明治 13 年（1880 年）、146 年前に開業した旧東海道本線（山科ルート）の橋脚跡。

この橋脚が使われていた当時のルートは、京都駅を出たあと現在の JR 奈良線のルートで伏見稲荷付近まで南下し、そこから山科盆地の南部を斜めに北上して旧逢坂山トンネルを抜けるという、現在のルートよりかなり南寄りの経路でした。

かつての山科川は現在と少し流路が異なっていましたが、鉄道の築堤が川をまたぐ位置（現在の名神高速道路のすぐ北側）にこの橋梁がありました。

この橋脚の東側（現在の名神高速道路の盛土内）には、かつての「旧山科駅」があり、現在は記念の石標が建てられています。



東海道本線のルートが変更され廃線となった後、長年の水の流れによって、橋脚の一部がかつての線路直下から少しずつ下流側へ流され、現在、小野小西側の川底に一部が水面から顔をのぞかせています。



そう思って眺めると、かつてこのあたりを国鉄が走っていたことが想像され、歴史の痕跡を目の前にして感慨深い気持ちになります。

山科川の自然とともに、過去の鉄道の名残を感じられるこの場所は、散歩の途中にちょっと立ち止まって眺めたくなるスポットです。スマホ片手に、歴史と風景が重なる散策を楽しんでみてはいかがでしょう。

